

本年度の努力目標（努力点） ①児童生徒が安心安全に学べる学校環境づくりと、実践的な防災安全教育に努める。 ②小学部中学部高等部一貫した魅力ある指導内容と指導方法を工夫し、「一人一人が分かって動ける」授業づくりに努める。 ③保護者や関係諸機関との連携を密にし、心の通う学校づくりに努める。 ④教職員相互の信頼と協働体制をもって職務に臨み、明るく意欲にあふれた学校づくりに努める。 ⑤教育活動について積極的に情報を発信し、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。				
--	--	--	--	--

〔評価基準 A：よくできた B：おおむねできた C：あまりできなかった D：できなかった〕

1 各学部

【小学部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員による評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 児童の主体的な活動を引き出す指導・支援を実践する。〈努力点②〉	・活動内容を児童が理解できるように工夫して提示し、児童の主体的な行動をひきだすことができたか。 ・略案や教材を共有し、活用することができたか。	B	・「主体的な動きを見逃さないようにした」という反省が多かった反面、「手立てを工夫したが主体的な行動にはまだ結びつかなかった」という声も幾つかあった。 ・略案や教材の共有に関しては、活用できた学年・ブロックが多かったが、略案の作成するかどうか統一されていないとした意見や、コロナ対策以前のものは変更が必要との意見もあった。	・児童が少ない手立てで主体的に活動できるよう工夫する。 ・教材室の整理・活用をする。 ・効果的な教材を共有する。 ・ICTの活用を取り入れていく。 ・作成した略案は決められたフォルダに保存する。	B	B	・教材や手立て等を工夫しながら継続して取り組み、定着を図る。 ・略案は①「授業に関しての共通理解を図る」②「授業の計画を立案する際に過年度のものを参考にする」などの使い方がある。有効に活用できるよう、準備する授業を精選し、保存場所の共通理解を図る必要がある。
2 児童が安心して安全に学校生活を送れるような指導・支援に努める。〈努力点①〉	・安心安全に学べるような環境を整えることができたか。 ・日常生活の指導や避難訓練等の防災安全指導を通して、個に応じた指導・支援の工夫ができたか。	B	・環境整備に努めた。 ・児童の行動を予測し事前に危険を排除した。 ・訓練時の児童の様子を、今後の対応に生かしていく。	・避難訓練は、教室でなく特別教室からの避難など、様々なパターンで実施する。 ・コロナウイルス感染症予防に努める。	B	B	・特別教室からの避難は、3学期に実施予定。 ・教室内の環境整備に努めた。 ・引き続き感染症対策をとりながらも、行うはずだった学習をどのように補完するか検討していく必要がある。

【中学部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員による評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 社会生活に必要な挨拶、身だしなみや清潔などのマナーを身につけられるよう支援の工夫をする。〈努力点②〉	・学級目標に取り入れ、各授業・行事の個人目標と関連付けたりなどし、継続した支援をすることができたか。	B	・学級目標に取り入れて掲示し日常的に意識できるような促しの効果や行事の他に職家や生単での継続した支援を行った。身だしなみやマナーが身につけてきている様子が見られる。	・1学期の取組を継続する。 ・視覚支援教材の工夫、充実をする。	B	B	・2学期は、学校行事、学部行事、校外に出る学習などで、具体的に相手や場面を意識しながら、挨拶や身だしなみ・清潔の大切さを体感することができ、生徒の達成状況を確認することもできた。 ・手洗い場に使いやすい泡石けん容器を配置したり、とちまるメッセージを貼ったりし、意識を高めることができた。
2 生徒一人一人が分かって動ける授業作りに努める。〈努力点②〉	・個々の生徒の障害の状態や発達段階、興味・関心等を把握し、授業作りにいかせたか。 ・生徒の主体的な活動を引き出す学習計画の工夫や支援ができたか。	B	・生徒の成功体験を増やせるような教材の準備、個に応じた教材作り、視覚支援教材やタブレットの活用をした。タブレットの活用は個の発達段階に応じた課題の選択にも有効だったが、余暇の広がり効果も見られた。 ・生徒の主体的な活動を引き出すために、個に応じた説明や分かりやすい説明、関心や意欲を引き出す話題提供や言葉掛けに努めた。	・1学期の取組を継続する。 ・教員間の情報交換、授業の振り返りを行い、改善を図る。	B	B	・視覚支援教材やタブレットを活用し生徒が一同に集まらないリモート授業を設定したり、行事のしおりや授業のパワーポイントを、障害の状態や発達段階に考慮して作成・提示したりし、分かりやすさが図られて生徒が自分で動ける活動が多く見られた。また、友達や自分がテレビに映る姿に関心を高め静聴する様子が見られた。

【高等部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 社会生活に必要な基本的なマナーを身につける支援を実践する。〈努力点②〉	・各学年等で重視するマナーについて教員間で共通理解を図り、授業や支援を行うことができたか。	B	・指導されたマナーを意識する生徒が増えた。 ・担任・副担任がいない場面や生徒同士のやりとりの中で、マナーを守ることはまだ難しい。	・生徒の発達段階に合ったマナーの指導を継続して行っていく。 ・授業中、生徒を「さん」と呼ぶことについては、教員が模範を示していく。	B	B	・マナーを意識する生徒が増えたが、時間が経ったり、場面が変わったりすると忘れてしまうので、どの場面でも実践できるよう継続して指導していく。 ・高等部教員には進んで挨拶する生徒が増えたが、他学部の教員や保護者、来校者に自分から挨拶する生徒はまだ少ないので、継続して指導していく。
2 安全に学校生活を送るために、様々なトラブルに対応する力を育む支援を実践する。〈努力点①〉	・ルールの遵守や余暇の過ごし方、ストレスの解消の仕方など、様々な場面を想定して授業を展開したり、保護者と連携して支援したりすることができたか。	B	・トラブル例を挙げて説明し、トラブルを未然に防ぐよう努めたところ、トラブルなく過ごせる生徒が増えた。 ・生徒からの困りごとの相談やトラブルの報告が増えた。迅速に対応することができた。 ・LINEのトラブルは見えにくく、指導が難しい。 ・同じ生徒がトラブルを繰り返している。	・今後も、日頃から生徒の様子を観察し、トラブルの予兆を察知して指導していく。また、自分から伝えるのが難しい生徒には、個別に話を聞く時間を設ける。 ・SNSの正しい使い方を継続して指導していく。 ・家庭環境が関わる場合も多いので、保護者対応も含め、生徒指導部、進路指導部、関係機関と連携して指導にあたる。	B	B	・朝の職員打合せ時間に当番の教員が各教室を巡回するなど、生徒の行動・言動に常に気を配ることにより、トラブルを未然に防ぐことができた。 ・教員に相談や報告をする生徒が増えた。教員に相談することでトラブルを早期解決し、落ち着いて生活できる生徒が増えた。 ・SNSでのやりとりにより、学校生活に支障をきたしている生徒が増加している。家庭の支援力も含め、継続して指導していく。 ・トラブルを繰り返す生徒、保護者には、指導に対して誤解のないよう丁寧に説明するとともに、日頃から信頼関係を育んでおく。

2 校務分掌部

【教務部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 教職員間の連絡調整及び情報の共通理解に努め、円滑な教育活動を進める。〈努力点④〉	・掲示板やチームスを活用しながら情報収集や共通理解をし、事前準備等にあたることができたか。 ・適切な分担、打合せをしながら効率よく取り組めたか。	B	・チームスや掲示板を活用することで、業務の効率化が図られている。一方で、情報の見落としもある。 ・係内での協力体制や業務分担などを図りながら取り組んでいるが、専門的内容となると、負担の偏りがある。 ・印刷室が整理され使いやすくなったが、紙の使用が雑である。	・掲示板等の情報確認の徹底を促す。 ・掲示板とチームスの使い分けを明確にする。（全体周知：掲示板、係内連絡等：チームス） ・統合型校務支援システムの導入や活用を効率的に行っていく。 ・状況に応じた感染症対策を講じながら行事等の計画をしていく。 ・係主任を中心に業務内容や分担を確認しながら取り組む。 ・紙の使用については、児童生徒に個人還元されるものは学部や学級で対応できるかなど各学部主事と検討する。	B	B	・掲示板やチームスの活用は、情報共有や共通理解が図られ、効率的な業務につながった。 ・今後、新グループウェア（統合型校務支援システム）を使用していくに当たり、情報伝達を徹底するためにも、チームス等の使用の仕方も含め活用の仕方を統一していく必要がある。 ・昨年度の反省をふまえ業務分担を明確にしたことで、スムーズに業務が進められた。業務分担の確認等を行いながら取り組む。 ・宿題や連絡帳など個人に還元される紙は、学級費及び学部で対応していたくこととした。次年度始め、周知徹底を図る。
2 職務内容全般において、課題を改善しながら実践する。〈努力点③④〉	・課題を整理し、解決に向け改善方法を共通理解しながら取り組むことができたか。	B	・係内で課題の改善方法を検討しながら取り組むことができていく。 ・統合型支援システムの導入に伴い、業務の内容に変更が出てきている。	・引き続き新たな課題を整理、共有し、優先順位を確認しながら業務改善につなげていく。	B	B	・統合型校務支援システムの導入については、各校と進捗状況を確認しながら進めている。スケジュール通りに進まないこともあるので、その都度情報共有しながら取り組んでいく。また、担当を明確にし、職員へのスムーズな情報提供に努める。

【学習指導部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 授業研究会や事例研究会を推進し、教育活動の充実を図る。 （校内研究） 〈努力点②〉	・各学部との連携を図りながら各教科担当者会議や事例研究会を行い、教育活動の充実にも努めることができたか。	B	・自立活動事例検討会では、学部ごとに事例報告者の選定や検討会の進行表などを作成し、実施した。個別の課題や学習集団の課題が明らかになり、指導の重点目標を定めることができた。しかし、教員の参加状況にやや差があり、自立活動の指導充実には課題がある。 ・各教科等担当者制では、各班で情報の共有や事例検討会や授業研究会などを実施。	・自立活動指導情報交換会を実施し、自立活動について気軽に話せる場を設けるなど充実を図っていく。 ・各教科等担当者制の各班の研究を共有できるようにする。 （記録や共有できる教材などのデータを校務フォルダに保存）	B	B	・各学部で自立活動の事例をとりあげ、協議や情報交換を行い教育活動の充実を図ることができた。 ・各学部で共有できるデータのフォルダをつくったがまだ周知されていない。各教科等担当者制会議で、共有できる教材などは保存し活用できるように働きかけていく。
2 各学部と連携を図りながら、系統性・一貫性を旨とした年間指導計画の作成と実践について検討する。〈努力点④〉	・各学部との連携を図りながら、新様式の年間指導計画の実践を通して、さらに検討を重ね系統性や一貫性のある年間指導計画の整備にも努めることができたか。	B	・小学部では全て新様式の年間指導計画に移行。 ・中学部、高等部では、日生などの新様式での年間指導計画の作成中。目標の設定など課題があり検討中。 ・新様式の年間指導計画について共通理解が図れていないことがあり、係内での再確認を行った。	・小学部では、今年度の指導実践を通して年間指導計画（国語・算数など）を訂正し、整備していく。 ・中学部、高等部の教育課程編成の手引きから選定することが難しい目標については、係で検討し、目標を設定していく。	B	B	・新様式の年計の作成にあたっては各担当者間で検討しながら進めている。 ・新様式での年間指導計画の指導内容や目標などについては今後も検討を行っていく。

【児童生徒指導部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 児童生徒が安心して学校生活を送れるように、安全指導の充実を図る。 〈努力点①③④〉	・交通安全や社会的マナーの向上、児童心得や生徒心得、生徒規則の励行に努め、必要に応じて適切に外部機関と連携することで、安全指導の充実にも努めることができたか。	B	・教員間での理解と連携が進み、いじめ等の問題行動への未然防止、早期発見ができてきた。問題等に学部主事と連携し管理職の指示を受け組織的に対応してきた。 ・自力通学生やスクールバス乗車児童生徒の登下校の安全に向け、立哨指導や乗車指導を定期的、必要に応じて臨時に行うことができた。スクールバス内の情報を担任に伝えてきた。 ・交通安全教室や不審者対応訓練、防犯教室では、学部や学級毎に実施したので、実態に応じた訓練ができた。繰り返し指導することで、生徒の意識向上が見られた。 ・問題行動のある児童生徒の支援の一環で、関係諸機関との連携を図ったケース会議を実施した。 ・心の健康調査を実施し、実態や対応について、教職員で共通理解を図った。	・教員間で連携を図りながら安全なバス運行に努めていく。 ・交通安全や感染症対策を行いながら、安全な運営を目指す ・心の健康調査を実施し、実態把握に努める。表出の難しい児童生徒へも、普段から注意して見ていく。	B	B	・立哨指導や真岡鐵道乗車指導を通して、児童生徒の実態を担任や関係教員で共通理解し、連携して指導にあたってきた。また、校内、学校周辺の巡回指導を定期的に行うことで、問題行動等の未然防止対策を行った。 ・自力通学生に対して交通ルールやマナーの向上のために、繰り返し注意喚起を呼びかけてきた。 ・安全に運行できるよう乗車バスや停留所の変更等の調整を行った。また、スクールバス利用規定に基づいて乗車指導を行うことができた。 ・心の健康調査を適切に行い、学部内で情報を共有することができた。
2 児童生徒に安心安全な学校環境の整備をめざし、教職員相互の協働体制の強化を図る。〈努力点①④〉	・スクールバスの適切な運行や登下校の安全確保と指導、校内の安全整備に努めることができたか。	B	・各学年や各学部内で、連携して課題となる事案に対処できた。 ・児童・生徒心得、生徒規則の一部改正に向けた検討。 ・保護者宛通知等で、登下校の安全に関する注意喚起を行ってきた。 ・通学路やスクールバス停留所に課題があったとき、管理職の指示を受け迅速に対応することができた。 ・保護者からの教育相談希望に、他の文掌部の協力も得て適切に対応した。	・防犯マップを周知させていく。 ・スクールバスの運行で、行事の変更に対応できるよう、連絡を密に行っていく。 ・児童生徒の不応行動について、共通理解や問題解決を図る。 ・必要に応じて関係諸機関と連携を図る。	B	B	・児童生徒の安全指導では、関係する教員で共通理解を図ったり、配慮が必要な児童生徒について情報を共有したりして指導にあたった。 ・研修を通して教員の安全教育に対する意識高揚を図った。 ・スクールバスに関する問題が起こったとき、教員の乗車指導や関係機関と連携して組織的に対応することができた。 ・必要に応じた対応を組織的に行えるよう取り組んだ。内容によって個別に関係職員が対応したり、関係機関と連携を図ったりしてきた。

【地域支援部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 早期教育相談や地域連携について、教員間での共通理解を図り、資質の向上に努める。〈努力点③④〉	・早期教育相談担当者ファイルの内容の見直しや地域連携に関する活動内容の検討を行い、取組に活かすことができたか。	C	・早期教育相談担当者ファイルは今年度の実施要項等を差し替えたが、内容の見直しは行っていない。 ・地域連携に関する活動はコロナ対応のため活動内容を検討し縮小せざるを得なかった。	・担当者ファイルの内容の見直しは個別相談の担当者を中心に検討していく。 ・共通理解を図りながら、効果的な活動を検討していく。	B	B	・担当者ファイルの内容の一部を見直し更新した。個別相談の担当者が活用しやすいようにしていく必要がある。 ・感染状況を見ながら、外部ボランティアを限定して依頼することができた。
2 本校の教育活動についての情報を地域に発信し、関係諸機関や地域社会との連携に努める。〈努力点⑤〉	・地域社会が必要とする情報を様々な方法で発信をすることができたか。	B	・各学部の地域での活動の様子をHPに掲載することができた。また、予定どおり、益特だより（第1号）を発行し、益子町・市貝町で回覧及び関係機関に配布した。 ・幼稚園・保育園等の先生方を対象とした特別支援教育研修会を実施した。参考になったとの意見がアンケートに記入されていた。	・各学部の地域での行事や活動を再確認し、HPにできるだけ掲載することで、発信を増やせるようにする。また、益特だより2号、3号の発行に向けて準備をしていく。 ・アンケート結果から来年度の研修内容等を検討していく。	B	B	・益特だよりは予定どおり発行できた。HPへの掲載時には「地域のみなさまへ」のページと「トップページ」にも掲載し、できるだけ多くの方に情報を発信していく。また、各学部の活動の様子は係の教員が毎月一人一つは掲載するように具体目標を設定し取り組んでいく。 ・特別支援教育研修会は幼稚園・保育園から9名、本校職員17名の参加であった。アンケート結果、支援要請内容、早期教育相談時の相談内容等を踏まえ、来年度の研修内容を検討していく。

【健康指導部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 児童生徒が安心・安全に学習できる環境を整えるための情報収集に努め、安全教育の充実、実践を図る。〈努力点①〉	・新しい生活様式に沿った学習環境を整えられるよう国や県から発信される情報を基に実践することができたか。 ・安全点検や衛生管理の充実を図り、安心・安全な環境作りに努めることができたか。	B	・コロナウィルス対策で制限がある中、国や県から発信される情報を下に避難訓練や心肺蘇生法研修を実施することができた。 ・新しい生活様式に沿って食堂を整備した昨年度の対応を継続し、安心・安全な環境の下で給食を食べることができた。 ・安全点検の結果を担当者にフィードバックして意識向上を図れるようにしたり、手指消毒の物品を充実させ換気や消毒を適宜行ったりして、安心・安全な環境作りに努めることができた。	・国や県からの指針に変更があったときには速やかに周知し、それに基づく方法で環境整備に取り組む。 ・継続した実施と万が一に備えた係分担、指揮系統を検討しておく。また、他校の様子を参考にするなど、情報収集に努める。	B	B	・国や県からの指針に基づきその都度対応しながら、児童生徒にとって安心・安全な環境作りに努めることができた。 ・物品の充実により衛生管理に努めることができたが、物品の購入、保管、使用方法の全体周知は必要だった。 ・他校の取組等の情報を集めながら、本校の感染状況に応じた衛生管理の対応について学協会や職員会議等で周知し、全体の意識付けや衛生管理の徹底を図ることができた。
2 教職員一人一人が協働意識をもつと共に、保護者や関係機関との連携を密にしながら健康の保持増進に対する理解と啓発を進める。〈努力点③④〉	・学校生活における安全管理及び保健指導、アレルギー対応等における共通理解のための啓発方法を工夫したり、課題の改善に努めたりすることができたか。	B	・特にアレルギー対応については係だけでなく、学協会や学年会などの機会を利用して教職員に周知し、意識を高めることができた。	・今後はアレルギー対応だけでなく肥満傾向への対応などの必要性も考えられるため、保護者への丁寧な聞き取りや担任と係の連携の在り方について検討を続ける。	B	B	・全職員が共通した認識をもてるよう、年度始めにアレルギーやエビペンに関する研修を実施した。学協会や学年会などの機会にアレルギー対応の児童生徒について周知し、対応ミスが起きないよう努めた。

【進路指導部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 小中高の連続性を踏まえた進路指導の取組を推進する。〈努力点②④〉	・教員が進路指導の取組を共通理解し、取り組むことができたか。 ・研修や資料等により、教員に十分な情報提供ができたか。	B	・担任間の連携が図れている（高）。 ・進路だより等で情報の共有ができた。 ・一般就労について知る機会がなかった。 ・福祉施設ガイドは教員にも有用だった。 ・夏季施設見学研修が行えて良かった。 ・集まる機会がもてない中で、どう共通理解を図るか。	・自己研鑽したい。 →小規模の研修会等を設け、学びの機会を提供する必要性は感じている。 ・研修機会に限られる中で、teams等を活用し、特に高等部や卒業生の現状をまずは部内で共有する。	B	B	学部間の情報共有に資するため、以下のような手段が考えられる。 ・夏季休業中に教員向けのミニ研修会等を行い、情報共有を図る。 ・企業向け学校公開の様子を録画し、閲覧できるようにする。 ・実習先一覧を掲示板にUPする。
2 保護者への進路支援を図るため、情報の提供や進路相談を充実させる。〈努力点③⑤〉	・実習報告会やホームページ等での情報提供及び個別の相談支援を充実させることができたか。	B	・進路だよりや福祉施設説明会、福祉施設ガイドブックで保護者に情報を提供することができた。 ・進路アンケートで、保護者の要望や昨年度との変化を把握することができた。 ・HPでの情報提供をどのように充実させれば良いか分からない。	・個別の困りごとを丁寧に吸い上げる。 ・HPを見ていない教員がほとんどなので、部の記事を定期的に閲覧するようにする。 →情報を自ら取りに行く姿勢（保護者、教員ともに）をどう啓発するか。	B	B	情報提供や進路相談は、おおむね適切に実施することができたが、より良い形を目指すために以下の点について検討する必要がある。 ・進路相談会は夏季休業中の実施に戻し、スケジュールにゆとりをもたせる。 ・小学部段階から、懇談時に進路の話題に触れる。 ・「進路だより」のマンネリ化を防ぐために、進路アンケートの結果をグラフ化して掲載する等の工夫をする。

【渉外部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員 による 評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 保護者との連携を図りながら、保護者の主体的な活動を推進する。〈努力点③〉	・役員会、理事会、各種委員会等を通して保護者の意向の確認など情報交換を行い、連携を図りながら活動をサポートすることができたか。	B	・感染対策を行いながら、PTA役員会・理事会・専門委員会等を開催し、情報の共有や交換ができた。 ・各種専門委員会の活動は、活動内容を検討しながら今後実施予定である。	・継続して情報交換を行っていくことやあがってきた意見や課題の検討に係会等で取り組みながら、サポートしていく。 ・感染症の状況を確認し、無理のない範囲で、アンケート形式等実施方法や内容を工夫しながら取り組んでいく。	B	B	・感染対策を行いながら、PTA役員会等において、情報交換や情報を共有し連携を図りながら取り組むことができた。 ・専門委員会の活動は、委員長・副委員長と連絡・確認を行いながら、広報誌の発行及び防災・減災に関するアンケートや次年度の活動内容に関するアンケートを実施し、情報の共有や意見の収集を行った。 - 今年度の活動を参考にしながら、今後の活動の在り方を構築できると良い。
2 部関係行事において、今年度の活動方法や次年度に向けての活動内容を職員間、保護者、関係機関と連携を図り実施・検討していく。〈努力点③④〉	・感染症の状況を確認し、計画・実施や変更等を行うことや、次年度に向け大まかな活動内容を検討できたか。	B	・感染症の状況を確認しながら、職員間（係会等）・保護者・関係団体等と連携を図り活動計画や内容の検討、実施方法等を模索したり調整したりしながら取り組んでいる。 ・今後、次年度に向けての活動内容等、方向性を検討していく。	・継続して取り組んでいく。 ・今年度の活動を整理・反省しながら課題の確認、次年度に向けて活動の検討（コロナ渦の状況も踏まえた）に取り組んでいく。	B	B	・感染状況を確認しながら、係職員・保護者・関係団体等と情報交換、連携を図り、検討や調整を進めることができた。 - また、同窓生と親の会の行事等で、内容を精選し取り組むことができた。 - 今後も継続して取り組み、実施について、柔軟に検討や対応をしていく。

【特別活動部】

今年度の目標	評価の観点	中間評価		今後の取組	全教員による評価	期末評価	
		評価	考察（達成状況）			評価	考察
1 児童生徒の主体的な活動の充実を図るため、安全で円滑な活動の計画や運営に努める。〈努力点①②〉	・可能な限り効果的な活動集団の形成に努め、十分に安全に配慮した環境整備を行って計画や運営をすることができたか。	B	・運動会の練習では、感染対策として、種目内容の柔軟な変更や集合場所のソーシャルディスタンス、密にならない集団での練習など計画的かつ大きな怪我無く取り組むことができた。 ・係内で感染症対策、活動内容の検討、大会等の参加の仕方などを話し合い、安全で円滑な活動ができるよう努めた。	・保護者の参観については、学部ごとに人数も違い、密を避ける上での対応が曖昧な部分があったので、事前に教員も含め周知徹底できるように計画する。 ・今後も感染症対策、活動を実施するにあたり、各学部、部長、主事と話し合い、各学部の実態に合わせて安心、安全に活動できるよう検討していく。	B	B	・ましこ祭では、新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に行った上、保護者や児童生徒が密にならないよう工夫した。保護者の参観にあたり、各学部内でも分散して時間調整を行った。 ・児童生徒会では感染対策のため、集会は行わず、学級ごとに活動した。ましこ祭や集会の進行等は感染症対策をとった上で役員中心に活発な活動を促せた。
2 児童生徒の所属意識を高め、職員間で情報共有を図り、校外への情報発信を充実させられるようHPや掲示板、校内放送やICT機器の活用に努める。〈努力点③④⑤〉	・HPや掲示板を活用し内容を充実させたり、行事や集会に校内放送やICT機器を効果的に活用することができたか。	B	・ICTを利用した集会活動を行うことで、役員の児童生徒が自分の役割に責任もって行うことができた。	・校外、主に保護者の方々に児童生徒の様子を発信する機会の検討、ICT機器をより効果的に使うための工夫。	B	B	・運動会ではHPに感染症対策に取り組んだ画像などを入れ、平日での学部実施について地域に発信することができた。高等部は、密を避け全体での練習が少ないため、学年・学級ごとに演技の映像を活用し効果的に取り組むことができた。 ・MYタイムでは、ハートピックや障スポなどの大会が中止となったためHPに掲載することはなかったが、中止のお知らせなど職員間で情報共有を行ったり、ICT機器を活用して活動を行ったりすることができた。